

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
(仮称)嵐山ホテル計画

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年
■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

スコアシート	実施設計段階	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
					評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									3.8
Q1 室内環境									3.4
1 音環境						0.40		-	3.4
1.1 室内騒音レベル					3.8	0.15	3.3	1.00	3.6
1.2 遮音					4.0	0.40	4.0	0.40	
1.2.1 開口部遮音性能					5.0	0.40	3.9	0.40	
1.2.2 1 開口部遮音性能					5.0	1.00	5.0	0.30	
1.2.2 2 界壁遮音性能					-	-	4.0	0.30	
1.2.2 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	-	3.0	0.20	
1.2.2 4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音					1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境					2.6	0.35	4.5	1.00	3.3
2.1 室温制御					3.0	0.50	4.1	0.50	
2.1.1 室温					3.0	0.38	5.0	0.57	
2.1.2 外皮性能					3.0	0.25	3.0	0.43	
2.1.3 ソーン別制御性					3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御					1.0	0.20	5.0	0.20	
2.3 空調方式					3.0	0.30	5.0	0.30	
3 光・視環境					3.8	0.25	3.8	1.00	3.8
3.1 昼光利用					3.0	0.30	3.0	0.30	
3.1.1 1 昼光率					3.0	0.60	3.0	0.60	
3.1.1 2 方位別開口					-	-	-	-	
3.1.1 3 昼光利用設備					3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策					4.0	0.30	4.0	0.30	
3.2.1 1 昼光制御					4.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度					3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御					5.0	0.25	5.0	0.25	
4 空気質環境					3.4	0.25	3.0	1.00	3.2
4.1 発生源対策					3.0	0.50	3.0	0.63	
4.1.1 1 化学汚染物質					3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気					3.0	0.30	3.0	0.38	
4.2.1 1 換気量					3.0	0.50	3.0	0.33	
4.2.1 2 自然換気性能					3.0	-	3.0	0.33	
4.2.1 3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理					5.0	0.20	-	-	
4.3.1 1 CO ₂ の監視					-	-	-	-	
4.3.1 2 喫煙の制御					5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	3.2
1 機能性					3.3	0.40	4.0	1.00	3.5
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	4.0	0.60	
1.1.1 1 広さ・収納性					-	-	5.0	0.50	
1.1.1 2 高度情報通信設備対応					-	-	3.0	0.50	
1.1.1 3 バリアフリー計画					3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					3.0	0.30	4.0	0.40	
1.2.1 1 広さ感・景観 (天井高)					-	-	5.0	0.50	
1.2.1 2 リフレッシュスペース					-	-	-	-	
1.2.1 3 内装計画					3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理					4.0	0.30	-	-	
1.3.1 1 維持管理に配慮した設計					5.0	0.50	-	-	
1.3.1 2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性					3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50	-	-	
2.1.1 1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.80	-	-	
2.1.1 2 免震・制震・制振性能					3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.0	0.30	-	-	
2.2.1 1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.20	-	-	
2.2.1 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.20	-	-	
2.2.1 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.10	-	-	
2.2.1 4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.10	-	-	
2.2.1 5 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.20	-	-	
2.2.1 6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性				災害時非常用電源を採用	3.8	0.20		-	
1	空調・換気設備			井水利用、中水利用を採用	5.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備				5.0	0.20		-	
3	電気設備				3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性					3.0	0.30	3.0	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり									
1	階高のゆとり				3.0		3.0	0.50	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		3.0		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)							0.30	-	4.8
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)	風致基準に基づいた十分な緑地を確保、周辺敷地の植生を採用	5.0	0.30			5.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	風致地区第2種地域にて許可通知を受けている	5.0	0.40			5.0
3 地域性・アメニティへの配慮					4.5	0.30			4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも 自然	A'(全国版準用)	エントランス道路側へ庇を設置 建物を分棟形状とし中庭を設置	5.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)	十分な緑地、水景施設を設置	4.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性									2.9
LR1 エネルギー						0.40			2.5
1 建物外皮の熱負荷抑制					2.0	0.20			2.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)	井水利用を採用	4.0	0.10			4.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEI][BEI _m] = 0.95	2.2	0.50			2.2
4 効率的運用					3.0	0.20			3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00			
4.1	モニタリング				3.0	1.00			
4.2	運用管理体制				-	-			
集合住宅の評価					3.0	-			
4.1	モニタリング				3.0	-			
4.2	運用管理体制				3.0	-			
LR2 資源・マテリアル							0.30	-	3.3
1 水資源保護					3.4	0.20			3.4
1.1 節水					3.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.7	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)	雨水中水利用を採用	4.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減					3.3	0.60			3.3
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10			
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	客室内収納下地材に地域産木材(スギ)を使用	3.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	客室棟コンクリート造とし仕上との区分をわかりやすくしている	5.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.6	0.20			3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				接着剤等下地材、仕上材として☆☆☆を採用	5.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70			
1	消火剤				-	-			
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3	冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境							0.30	-	3.0
1 地球温暖化への配慮				一般的な建物と同等の数値を確保	3.1	0.33			3.1
2 地域環境への配慮					3.0	0.33			3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25			
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3	交通負荷抑制			駐車スペース、駐輪スペースを確保	4.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音				3.0	0.33			
2	振動				3.0	0.33			
3	悪臭				3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制				-	-			
3	日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					3.0	0.20			
1	屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる